

山形県魅力ある県立高校づくり推進事業「次世代地域産業人材育成事業」

《申請者の現状》

山形県教育委員会では、令和5年度からの新規事業において、持続可能な地域社会の実現や、産業系高校教育の充実のため、自治体・産業界・大学等で構成する協議会（コンソーシアム）を産業系高等学校14校に設置し、地域のニーズを踏まえた教育課程の開発や地域産業界との連携・協働による特色化・魅力化を図ることとした。（コンソーシアムの設置は、R7閉校の新庄南を除く。）

《実施内容》

本事業においては、産業系高等学校15校を拠点校に指定し、コンソーシアムの円滑な運営と地域産業界との連携強化を図るため、地域産学連携コーディネーターを派遣する。

拠点校における各産業の次世代分野（AI・IoT・ドローン・ロボティクス）の研修や産業現場における長期研修（インターンシップ）や地域産業界との連携を図る。（新庄南を拠点校に加える。）

《背景》

- ・中教審答申「新しい時代の高校教育の在り方」
- ・学校教育法施行規則改正（R4. 4. 1）
- ・山形県産業教育審議会答申（R4. 10. 26）

《課題》

- ・コンソーシアムにおける地域産業界との連携強化
- ・社会や各産業の変化に対応できる人材の育成
- ・山形の各産業の未来を担う人材の育成（県内定着）
- ・産業系高校の志願倍率の低下

県立産業系高校 産業教育連携協議会(コンソーシアム)

【大学・学校関係者】

- ・大学教授 ・ 県立産業技術短期大学校教授等
- ・校長、同窓会、PTA関係者等

【自治体】

- ・県、総合支庁担当課
- ・市、町教育委員会
- ・市、町担当部局長

拠点校
15校

【産業界】

- ・商工会議所・企業
- ・JA、農業経営者
- ・市町商工会等

<産業教育連携協議会(コンソーシアム)事務局>

事務局長：各校事務部長（教頭、事務長）
事務局員：市、町各課員、市商工会、学科長等

【コンソーシアムの事業概要】

- ・各産業高校に自治体、産業界、大学等からなる協議会を設置
- ・各産業高校の魅力化・特色化に向けた地域連携事業や教育課程について、協議会において検討する。
- ・各産業高校において、小中学校との連携を強化し、各産業の担い手を目指す入学者増を図る。

連携・支援

《目的》

- 生徒が、地域や社会をフィールドとした学びの中で、技術の進展を肌で感じ、学校の学びを社会貢献に活かそうとする意欲を持つ職業人の育成
- 外部人材の活用により、地域との連携・協働による探究型学習の推進
- 地域産業の理解により、県内就職等地元定着や、大学等進学後の県内帰郷

令和6年度 マイスター・ハイスクール普及促進事業 魅力ある県立高校づくり推進事業「山形県次世代地域産業人材育成事業」



【山形県教育委員会】

- ・事業運営委員会（年2回）
- ・地域産学連携コーディネーターの配置（拠点校へ派遣）
- ・産業教育連携校会議及び研修会（シンポジウム）の開催
- ・成果報告書（デジタル版）発行

【拠点校(山形県立産業系高校15校)】

- ・次世代産業人材育成研修プログラム
- ①次世代分野（AI・IoT・UAV・ロボティクス）研修
拠点校において、次世代分野のスペシャリストによる授業・研修の実施
- ②次世代産業分野長期研修（インターンシップ）
産業現場における長期研修において、地域産業の次世代を担う人材の育成を図る。

拠点校：職業に関する学科を設置する全ての山形県立高校15校

地域産学連携コーディネーターによる地域産業界とのマッチング



山形県教育委員会(管理機関)の取組み

11月第2土曜日

は
やまがた教育の日

1 運営委員会の開催（年2回）

(1) 委員会構成

委員長：山形大学理学部教授	栗山 恭直 氏
委員：上山市副市長	鈴木 英夫 氏
委員：東北ハム株式会社代表取締役	帯谷 伸一 氏
委員：県立産業技術短期大学校校長	佐藤 俊一 氏
委員：県立山形工業高等学校校長	高橋 良治 氏
事務局：県教育局高校教育課長、課長補佐、主任指導主事 指導主事（3名）	

(2) 運営委員会の内容

- ①事業計画・実績における成果指標の分析、検証及び次年度以降の計画の策定・承認
- ②拠点校における産業教育連携協議会の運営・地域連携に対する指導助言・評価

(3) 開催（年2回）

- ①第1回運営委員会
令和6年7月12日（金）
- ②第2回運営委員会
令和7年2月（持ち回り開催）

(4) 主な意見（今後の課題）

- ①令和8年度以降の事業成果継続について
- ②産業教育連携協議会の自立化
（外部からの資金獲得について）
- ③拠点校の特色ある取組の普及（横展開）について



第一回運営委員会

2 地域産学連携コーディネーターの派遣

(1) 目的

拠点校に対し、地域産学連携コーディネーターを派遣し、産業教育連携協議会の円滑な運営と地域産業界との連携強化を図る。

(2) コーディネーターの役割

- ①拠点校における地域と学校の連携促進に関連する指導・助言
- ②拠点校のインターンシップ、地域連携に係るマッチング、巡回や企業への助言業務
- ③拠点校の学習成果発表会等における指導・助言
- ④外部機関との連絡調整、連携強化、大学や自治体、企業等の新たな連携先の開拓

(3) コーディネーター構成（得意分野）

- ①浅野 えみ 氏
（キャリア教育・探究学習・企業、管理職、経営者支援）
- ②伊藤 麻衣子 氏
（キャリア教育・企業、自治体支援）
- ③末永 玲於 氏
（起業、自治体支援・地域連携）
- ④大垣 敬寛 氏
（探究学習・起業支援・国際交流）

(3) コーディネーター派遣実績

- ①学校訪問日数39日（延べ）
- ②学校訪問時間117時間
- ③教育委員会勤務日数18日（延べ）
- ④教育委員会勤務時間69時間



産業教育連携協議会においてコーディネーターを務めるコーディネーター（加茂水産高校）

3 産業教育連携校会議・研修会の開催

- (1) 産業教育連携協議会による地域産業界との連携状況に関する情報交換や地域連携の先進県、先進校等の取組を学ぶ研修会を開催し、拠点校教員及び産業教育連携協議会委員等約40名が参加した。

4 成果報告書(デジタル版)の発行

- (1) マイスター・ハイスクール普及促進事業における取組に加え、拠点校産業教育連携協議会の成果を記載し、事業成果について県内外に情報発信する。
※令和7年5月発行予定



産業教育連携校会議・研修会



拠点校の取組み(次世代産業人材育成研修プログラム)

(1) 次世代分野 (AI・IoT・UAV・ロボティクス) 研修

①次世代分野のスペシャリスト（産業実務家又は大学教授等）による講義・実習の実施



・農業用ドローンの圃場での実習



・生成AI等の活用の学習



・介護ロボットによる実習



・トータルステーションの実習

(2) 次世代分野産業現場実習及び長期インターンシップ

②企業・大学等産業現場における、各科目の実習、授業等の実施
③産業現場における概ね2週間程度の長期インターンシップの実施



・東北農林専門職大学等における体験講義



・製造業における機械加工実習



・地元企業におけるインターンシップ



・地元パン屋におけるインターンシップ

事業評価(生徒・産業界)

数値は2月末現在

《生徒評価》

○次世代分野 (AI・IoT・ドローン・ロボティクス) 研修

生徒事後評価で「興味・関心」、「役割」、「必要性」に関して約60～90%が「聞いて高まった」に変容した。

○産業現場実習

「興味・関心」「自学科の社会での役割の理解」に関して「実習をとおして高まった」と回答し、実習により約70～80%が興味・関心を高めることができた。

○長期インターンシップ

「実践的な技能が身についたか」、「コミュニケーション能力や協調性が身についたか」等でほぼ100%が身に付いた、高まったと回答した。

《受入事業所(産業界) 評価》

○次世代分野研修(産業現場実習・長期インターンシップ含む)

「実践的な技能」、「コミュニケーション能力や協調性」、「社会人としてのルール」について、約90%が身についたと回答。

○受入側のメリット・負担について

メリットとして、「高校や高校生と関係が構築できること」や「高校生の考え方が分かった」が上位を占めた。

負担として、2割程度の事業所において、「実習指導者の確保」、「実習プログラムの準備」との回答が上位を占めた。

一方、「負担はない」との回答も36%であった。